

○佐原正秀委員長 他に質疑ございませんか。

矢吹哲哉委員。

○矢吹哲哉委員 通告しておきました、まず塩川駅の東西自由通路整備事業と山都の大沢口橋整備事業の平成30年度の取り組みですけれども、これを見ますと、本来ならばもう今年度もずっと進めていくわけですが、大沢口橋は継続費で今年度になって、やりましたら8月にまとまって、もう実施計画を今進めているというんですけれども、塩川駅の東西自由通路については、今年度は新市建設計画にもものっていないんですよね。これは具体的にいつまでにどのような形で総事業費や事業計画が出るのか。まず、その点、前もやりましたけれども、ちょっと曖昧なんですよね。それによつては事業変更もあり得るということなんですけれども、これはどういうふうに市長はお考えで、いつまでこれはまず全体事業費を出そうとしているのか、お尋ねいたしたいと。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） 塩川駅西の自由通路事業及び橋梁の関係について、2つまとめてお答えさせていただきます。

塩川駅東西自由通路につきましては、当該通路の整備とあわせて周辺道路や駐車場整備など、塩川駅周辺地区の一体的なまちづくりを実施するため、都市再生整備計画事業により進めていく予定であります。このため、平成30年度は業務委託により住民の方々との意見交換会を開催し、東西自由通路及びふれあい会館を含めた周辺施設に求める機能等についての取りまとめを行ったところであります。事業の進め方につきましては、今後、全体事業費及び事業スケジュールがJRより示される予定となっておりますので、その内容について精査し、年度内の基本協定締結に向けJRとの協議を進めてまいりたいと思います。

また次に、大沢口橋の整備事業の平成30年度の取り組みにつきましては、橋梁予備設計を平成30年度5月末に発注し、地元との協議や河川協議に時間を要したことから繰り越しといたしましたけれども、令和元年8月末に完了しております。今後の進め方につきましては、今年10月に橋梁詳細設計を発注し、次年度以降は用地買収等を行い、地域住民の生活路線を確保するため順次工事を行っていく予定でございます。それぞれの事業の実施に当たりましては、全体事業費、事業期間を示し、財源や他事業との調整を図った上で中期財政計画に計上することとしております。

なお、中期財政計画への計上に当たりましては、計画計上事業全体について毎年度のローリングによる見直しを行っているところであり、各事業の事業費や緊急性、あるいは事業の進捗の状況などについてヒアリングを行い、市債バランス等に配慮した上で、場合によっては事業費の年度間調整なども行いながら計画計上しているものでございますので、ご了解をいただきたいと思っております。

○佐原正秀委員長 矢吹委員。

○矢吹哲哉委員 要するにどうなるかわからないというか、どうするかまだ決まっていないと

ということなのですが、総務のところでも私はやりましたが、財政の地方交付税が一本算定によって削減されると。そういうもつで財政は逼迫しているんだということで、一般会計のもつではマイナスシーリングでいろいろ削減で、大変だ大変だと削減している。しかし一方では、この新市建設計画に基づく事業は、これは約束だということで進めてきているわけですが、多分やりましたが、事業費は当然ふえると思うんですよね。この大沢口橋についても、塩川の東西自由通路についても再見直ししたんだけど、これも多分予定どおりにいかないでさらに工事費用は膨らむのは間違いないと思います。

それで、本来平成32年度に新市建設計画で終了を見込んでいると、それまでしか合併特例債もやっていないということなのですが、基本的にやはりこれは全体を今見直さなかったら、ここに新たに市長が公約した県立病院跡地の複合施設のやつが今年度から30億円が入ってくるんですよ、当面。もうこれは、指標を見てわかるように、もうパンクしてしまうのではないかと私は思いますよ。減ってくる中で建設事業費は減るところかふえるわけですから、やはり早急に、市民の不安は増すばかりです。そして、繰り返しになりますけれども、一方では減らしていると。これはやはり普通建設事業全体を見直して平準化しておく、これはやらざるを得ないと思うんですけれどもね。市長、どうなんでしょうか、そういうことをきちんとやはり明確にした事業計画ということでやるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） お話のとおり、先ほど答弁申し上げましたけれども、これらの事業については毎年、毎年度のローリングにより見直しも含めて市債バランスに配慮しながら対応しているわけでありましてけれども、当然お話がありましたように、この平成18年の1月に5市町村が合併した均衡ある発展ということでのそれぞれの地域で待望した事業でありますので、私どもとしては真摯にそれを受けとめて、市民の皆さん方が合併してよかった、この地域はこうなったと言えるような、私はその事業ではないかなと思っております。しかしながら、ご承知のようにJRとの協議が必要だと、河川協議も必要だということになってきますと、なかなか相手の組織がございまして、トータル事業については見えにくい状況でございまして、その都度議会の皆さん方にもさまざまな形でお示しをさせていただいているわけでありましてけれども、ある意味では破綻しないような、当然破綻しては困るわけでありましてけれども、破綻しないような中で地域のバランスを、いわゆる均衡ある喜多方の発展のために努めてまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

○佐原正秀委員長 矢吹委員。

○矢吹哲哉委員 私、新市建設計画だけでなく、だから市長の公約としてやって、今年度からその中期財政計画にも上がった複合施設の交流拠点、これが入ってきているから30億円ですよ。それでなくても大変なところに30億円が入ってきて、やります、これは本当に私どもはだから補正予算が出たときに実は反対いたしました、もっと市民レベルで財政状況も鑑みてどうするんだということをやっけていかなかったら、これはこれで進めるのかと。私は大問題に

なってくるというか、商業高校跡地もやるというんだけれども、全然手をつけられないで、塩漬けの前の総合運動公園というか、そのような二の舞に今のままではなってしまうおそれがあるんであります。そうならないように対策を、やはり今年度はあれになりますが、やはり来年度以降のをきっちり立てて市民に示すべきだと思うんですが、どうですか。全体としてマイナスシーリングをかけるのであればマイナスシーリングをかける、全体についてやるということにしないと、私は市民の納得は得られないと思うんですが、いかがでしょうか。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） 私ども、健全財政の運営については当然でございますし、必要な行政サービスは必ずやらなければならない、そういう中で、いわゆる合併によってこのそれぞれの地域が等しく発展せしめる大きな核となる事業だと私は思っています。ただいま委員のほうから、総合施設の問題についても市民にお示しするべきではないかというふうなお話がありましたけれども、やはり示すにはそれだけの根拠がございます。と同時に、補助事業なり、あるいはいわゆるJRも入ってくるという状況でございますので、その時期が参りましたら皆様方にお示しし、そして安心して未来が開ける喜多方市政をつくってまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○佐原正秀委員長 矢吹委員。

○矢吹哲哉委員 そうしますと、ちょっと確認ですけれども、塩川の東西自由通路は今年度JRを含めて基本的に基本協定をしておくんだと。基本協定というのは、私、産業建設常任委員会のかのときの決算でやりましたが、総事業費等々、あと事業年度計画、あらかじめ大枠が決まってくるんだということなんですけれども、そうしますとそれは来年度の中期財政計画、来年度の予算に当然のらざるを得ないと思うんですけれども、そういうふうに認識してよろしいでしょうか。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） 先ほどご答弁申し上げましたけれども、基本協定に向けて今、鋭意進めているところであります。幸いにいたしまして、JR仙台支社も大変好意的でございます。と同時に、やはり乗降客の便利も含めてJRにとってもプラスだというあれがあるのではないかなと思っておりますけれども、そういった意味で、そのJRとの協議、これがやはりある程度の大きなボリュームになるものですから、それらを決定し、次第に委員がお示しの時期が来ましたら発表してまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○佐原正秀委員長 矢吹委員。

○矢吹哲哉委員 ですから、今の市長を初めとした当局側としては今年度中に全部できるんだと。そうしますと、その内容が来年度の予算に、そして中期財政計画に当然反映されるということですね、そのことを確認したいんですけれども。

○佐原正秀委員長 答弁を求めます。

市長。

○市長（遠藤忠一君） 具体的な数字もございますので、建設部長から答弁させますのでご了承くださいと思います。

○佐原正秀委員長 建設部長。

○建設部長（吉田伸明君） 市長の命により、私から答弁させていただきます。

今のご質問ですが、当然自由通路について、今年度基本協定を結ぶ、中期財政計画に続ける、来年度の予算に反映させるのかというご質問です。今、今年度の基本協定締結に向けて作業、協議を重ねております。基本的には中期財政計画に位置づけ、また議会へも報告した上で新規着工するという流れになりますが、やはりJRがその着工時期をどのように定めてくるかということ、またその金額についても、市長答弁にもありましたが、精査しなければいけません。そういった意味で、そういった作業をしっかり説明しそういった作業を確認し、議会へ説明しご理解をいただいた上で当初予算に計上していくことになるかと考えております。

○佐原正秀委員長 矢吹委員。

○矢吹哲哉委員 わかりました。相互の、要するに私はそういう意味でやはりどうなるかわからない面があるんですけども、今の市の財政状況を、この中期財政計画も平成31年度を見ますと、より厳しくなっているんですよ、はっきり言って。そこにそういう事業が出てくるわけですから、このまま本当に進めてよいのかと。マイナスシーリングをかけるならば、文字どおり全ての事業についてやはり全てのものにゼロベースでかけていくと。新市建設計画やそういう重点事業は別ですよということを今やっているんですよ。そこは、私はやはり見直してやっていく必要があると思います。その点だけ指摘して、私はそういう意味でそういうのは進めないで、別枠でやっている平成30年度のこの取り組みについては私は反対ですね、やはり。そうだと思いますが、一応意見を述べまして発言を終わります。